

# 港湾振興便り



2022. 7

第182号

\*:

## 目 次

\*:

1 ポートエッセイ — 100年に一度の転換期 —  
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

## 2 トピック

- 北海道・枝幸港 本港地区屋根付き岸壁の暫定供用式典を開催しました！  
(枝幸町 水産商工課)
  
- 北海道・室蘭港 みなとオアシスSea級グルメ北海道大会in室蘭を開催しました！  
(みなとオアシス室蘭運営協議会 北海道みなとオアシス活性化協議会)
  
- 第1回室蘭CNP協議会の開催について  
(室蘭市港湾部 港湾政策課)
  
- 「海王丸パーク開園30周年・新湊大橋開通10周年記念式典」が開催されました  
(北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所)
  
- みなとオアシス輪島マリンタウンにおいて、輪島市民まつり2022が開催されました  
(輪島市 建設部)
  
- 敦賀苦小牧RORO船航路就航20周年  
(敦賀市 産業経済部 商工貿易振興課)
  
- 「北関東(内陸)港湾セミナー ～いばらきの港～ in 佐野市」を開催  
(関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所)
  
- これからの伊勢湾をみんなで考えるシンポジウムを開催！  
(中部地方整備局 港湾空港部)
  
- 「第8回 深日港洲本港航路に関する連携協議会」を開催  
(近畿地方整備局 港湾空港部 港政課)
  
- 「八代港コンテナターミナル機能高度化CFS倉庫完成式」開催  
(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

### 3 お知らせ

◇「第30回海事立国フォーラム」を開催いたします

◇深日洲本ライナーの運航開始

\* : \* :

#### 1 ポートエッセイ — 100年に一度の転換期 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

\* : \* :

産業革命に繋がった化石燃料によるエネルギーは、これまで多くの産業に発展をもたらすとともに、私たちの生活水準の向上にも大きく貢献してきた。

一方で、経済発展と共に化石燃料の消費は増加の一途を続け、その結果、温室効果ガスの排出量も増加し地球温暖化を招き、地球規模での気象変動や生態系への影響も深刻さを増すこととなった。

1995年から始まった「温室効果ガス排出削減」の議論は、2015年のパリ協定で、ようやく開発途上国も含めたすべての国の取り組みとすることが決まった。

産業革命以来続いてきた化石燃料を使ったエネルギーのパラダイムシフトの始まりである。

産業界では、すでに多様な取り組みが始まっており、自動車産業では、いち早くゼロエミッションカーへの移行に動き出し、EV自動車の普及や燃料電池車の開発に向けた取り組みが進んでいる。

また、四方を海に囲まれている我が国にとって大切な海上輸送を担う海運では、重油から硫黄分の排出が殆どないとされるLNGへの使用燃料の転換が始まっており、これに対応した船舶の建造や就航が始まっている。

しかしながら、我が国の基幹産業であり、すそ野の広い「自動車産業」は約3万点もの部品を製造している多様な企業から成り立っていることを踏まえると、内燃機関からEVへの転換は、使用部品が半分以上になると言われており、関連する企業へ影響とその対応が課題となってくる。

海運でも、LNG燃料用のエンジン搭載や燃料タンクの大型化、再液化装置の搭載などのコスト増となるなど大きな投資が必要となってくる。

この様に、石油製品の需要が減少に向かうことで、我が国を支えてきた石油産業への影響も大きい。

ガソリンや灯油などの石油製品の製造だけでなく、原油の蒸留過程で生産するナフサなどからなる化学製品の製造もしており、我が国の多くの産業と私たちの生活に密接に結びついてきている産業であるが、設備の老朽化なども加わり、製油所の閉鎖が進んでいる状況は、地域経済への影響が懸念されている。

しかし、このパラダイムシフトは持続可能社会を構築するためには必要なことであり、図らずもロシアによるウクライナ軍事侵攻による混乱から、「脱化石燃料」の取り組みが一時的に後退する懸念はあるものの将来に向けて取り組みを前進させて行かなければならない。

これを機に我が国としては、海外の動向に影響を受けにくい国づくりに向け、技術開発を含めたパラダイムシフトを進めて行く時に来ているのではないだろうか。

\*:

## 2 トピック

\*:

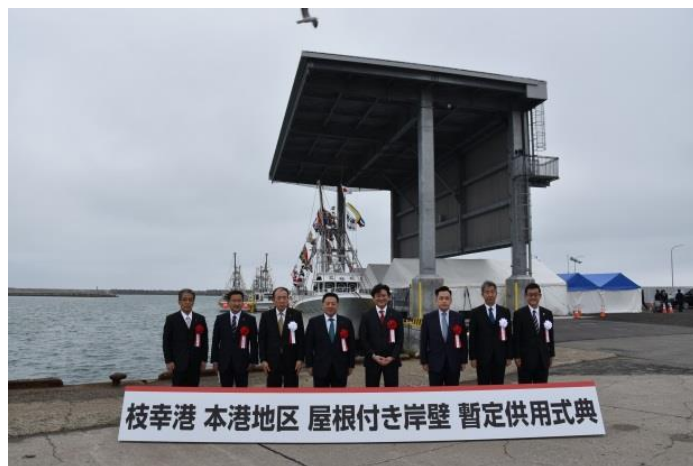
●北海道・枝幸港 本港地区屋根付き岸壁の暫定供用式典を開催しました！

(枝幸町 水産商工課)

令和4年6月5日(日)、北海道枝幸港において、枝幸町と北海道開発局稚内開発建設部の共催により標記式典を開催し、北海道選出の国会議員をはじめ関係者約50人のご臨席をいただき、供用を祝いました。

本施設は平成29年5月に枝幸港を含む道内6港湾管理者が策定した「農水産物輸出促進計画(国土交通省港湾局長認定)」に基づき、連携水揚港湾の一つとして、屋根付き岸壁全5棟(L=154m)の整備を進めており、令和4年3月に待望の1棟目が完成しました。

近年、食の安全・安心への意識が高まる中、屋根付き岸壁が暫定供用されたことで、ホタテなどの水揚げ時における直射日光の遮断や鳥糞など異物混入の防止が図られ、水産物の鮮度保持・品質向上による、更なる輸出の促進が期待されます。



暫定供用式典



本港地区屋根付き岸壁

●北海道・室蘭港 みなとオアシスSea級グルメ北海道大会in室蘭を開催しました！

(みなとオアシス室蘭運営協議会 北海道みなとオアシス活性化協議会)

令和4年6月25日(土)・26日(日)に北海道内と岩手県宮古港から13のSea級グルメが出店し、シーカヤック・ヨットの体験乗船や北海道大学室蘭臨海実験所、北海道立総合研究機構栽培水産試験場による学習展示なども行って、“食べる・遊ぶ・学ぶ”の3つをコンセプトに開催しました。

豪雨の前日から奇跡的な晴天へ一変し、鏡のように静穏な室蘭港を望む臨海公園で「人とのふれあい、幸せ、安全安心が室蘭港から世界へ伝わるように、家族や友人と楽しんで盛り上げましょう。」と実行委員長の掛け声で始まり、ステージでは、吹奏楽演奏やコーラス、和太鼓演奏、よさこい演舞が彩を添え、2日間で約1万6千人が来場し、売切御免のグルメが続出するほどの賑わいとなりました。

室蘭港開港150年を記念して応援に駆けつけてくれた他港の“みなとオアシス”はもちろん、漁業協同組合などの海に関わる市内の機関・団体が出し合って開催した本大会を契機に、これからも協力して港の賑わい創出に取り組んでまいります。



賑わうイベント会場



売り切れ続出のSea級グルメ

## ●第1回室蘭港CNP協議会の開催について

(室蘭市港湾部 港湾政策課)

令和4年6月27日(月)、室蘭市防災センター研修ホールにおいて、第1回室蘭港カーボンニュートラルレポート(CNP)協議会がWEB併用で開催された。

室蘭港においてCNPの形成を目指し、関係団体や民間事業者、学識経験者、関係行政機関、計28団体の構成員のうち26団体が会場及びWEBにより参加した。

協議会では、CNP形成計画の趣旨や、これまでの室蘭市のカーボンニュートラルへの取り組み、室蘭港CNP形成計画の実施方針などについての説明後、各参加者からカーボンニュートラルに関する取り組みや検討状況等について意見を頂いた。

2回目協議会で室蘭港CNP形成計画の素案を示し、3回目協議会では最終的な計画を確認し、今年度中の策定を目指している。

事務局である室蘭市港湾部は、「室蘭港におけるポテンシャルが高い水素や洋上風力の拠点港化と、各立地企業のカーボンニュートラル達成について、最終的な到達点とそこに至る道筋が見えるような計画を官民連携で作っていきたい」と話している。



第1回室蘭港カーボンニュートラルレポート協議会開催の様子

●「海王丸パーク開園30周年・新湊大橋開通10周年記念式典」が開催されました

(北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所)

令和4年6月12日(日)、射水市の海王丸パークにて「海王丸パーク開園30周年・新湊大橋開通10周年記念式典」が開催され、関係者約60名が節目を祝いました。

海王丸パークは1992年に開園されて以来、県内外より約2,457万人が来園する富山県内有数の観光拠点であり、多くの方に親しまれています。また、新湊大橋は2012年に開通し、交通の利便性向上や物流の効率化だけでなく、日本海側最大の斜張橋として、射水市のランドマークにもなっています。

式典では、主催者である公益財団法人伏木富山港・海王丸財団の蔵堀会長より「海王丸パーク・新湊大橋との相乗効果を図りながら将来の世代に伝え、ベイエリアの魅力向上に努める」との挨拶があり、続いて関係者より祝辞が述べられました。その後、くす玉開披と汽笛吹鳴、ボランティア参加による帆船海王丸の展帆が行われ、式典を盛り上げました。



くす玉開披の様子



海王丸パークから望む帆船「海王丸」と新湊大橋



帆を広げた帆船「海王丸」

●みなとオアシス輪島マリンタウンにおいて、輪島市民まつり2022が開催されました

(輪島市 建設部)

令和4年5月29日(日)及び6月4日(土)、5日(日)に、輪島市民まつり2022が開催され、6月4日には「みなとオアシス輪島マリンタウン」をメイン会場として、地元の小中校生や各種団体などによるステージイベントやパレードの他、食まつりや自衛隊・警察・消防・JAFの車両展示など様々な催しが行われ、大勢の人たちで賑わいました。

夜には、クライマックスとして「1分間あたりの花火の平均打ち上げ数が日本一」という輪島市民大花火大会が開催され、わずか30分間に2万2,280発の花火が打ち上げられました。

また、輪島市民まつりにあわせて、「につぼん丸」と「ぱしふいっくびいなす」が輪島港に入港しました。輪島港へのクルーズ船の寄港は3年振りで、2隻同時入港は今回が初めてです。来場された方々は、港内で煌めくクルーズ船と花火の共演を満喫し、花火大会終了後には、花火の興奮冷めやらぬ中、につぼん丸の出港を見送りました。



花火とクルーズ船2隻の共演



花火終了後、につぼん丸の出港をお見送り

## ●敦賀苦小牧RORO船航路就航20周年

(敦賀市 産業経済部 商工貿易振興課)

令和4年6月20日(月)、敦賀港と北海道苦小牧港との定期RORO船航路の就航20周年を迎えることを記念し、近海郵船株式会社様へ感謝状を贈呈しました。

贈呈式は敦賀市役所で行われ、感謝状盾を渚上隆信敦賀市長より関光太郎代表取締役社長へ贈呈しました。

近海郵船の敦賀苦小牧を結ぶRORO船航路は、平成14年6月12日に開設され、これまで北海道から主に農産物等を関西中京地域へ運んできました。また平成31年4月からは、敦賀港と博多港を結ぶ航路が開設されたことにより、北海道から九州までを敦賀港を経由して繋ぐことができ、まさに現代の北前船とも言える航路ができあがりました。

渚上市長からは、「敦賀港の発展に大きく貢献していただいただけでなく、北海道と関西中京圏とを結ぶ物流の大動脈が出来上がり、日本の経済と暮らしを支えてきたものと認識しております。今後も、敦賀港の利用促進を関係者と連携し推し進めていく所存です。」と挨拶がありました。

関社長からは「敦賀港という地域に恵まれ、また、関係者の皆様のおかげで、安定運航に繋がっているものと認識しております。交通インフラを支える内航船として、荒波に負けずしっかりと継続していきたい。引き続き、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。」とお言葉を頂きました。



感謝状贈呈の様子 近海郵船(株)関社長(左)と渚上敦賀市長(右)



記念撮影



●「北関東(内陸)港湾セミナー ～いばらきの港～ in 佐野市」を開催

(関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所)

令和4年6月9日(木)佐野市勤労者会館において、「北関東(内陸)港湾セミナー ～いばらきの港～ in 佐野市」を開催しました。

本セミナーは、全国のなかでも新規工場立地が進展している北関東3県の内陸部に立地する企業の皆様を対象に、茨城県の港湾の政策・取組の動向への理解をより一層深めていただくため、対面とWEB配信を併用して開催し、合計50社77名の方に参加いただきました。

セミナーでは、まず当事務所より国土交通省の最新の港湾政策や取組について講演を行いました。その後、茨城県より茨城県の港湾の動向について、吉田運送株式会社(佐野インランドポート指定管理者)及び株式会社神戸製鋼所より、常陸那珂港区をはじめとする茨城港での物流施策について発表いただきました。

セミナーは好評をいただき、参加者からは、「様々な企業の実例をもっと聞きたい」「国や県との意見交換の場を設けてほしい」など、様々なご意見をいただきました。



会場の様子



講演の様子

●これからの伊勢湾をみんなで考えるシンポジウムを開催！

(中部地方整備局 港湾空港部)

令和4年6月21日(火)、三重県津市アストプラザにて、これからの伊勢湾をみんなで考えるシンポジウムを開催しました。(※オンライン(WEB方式)でも同時開催)

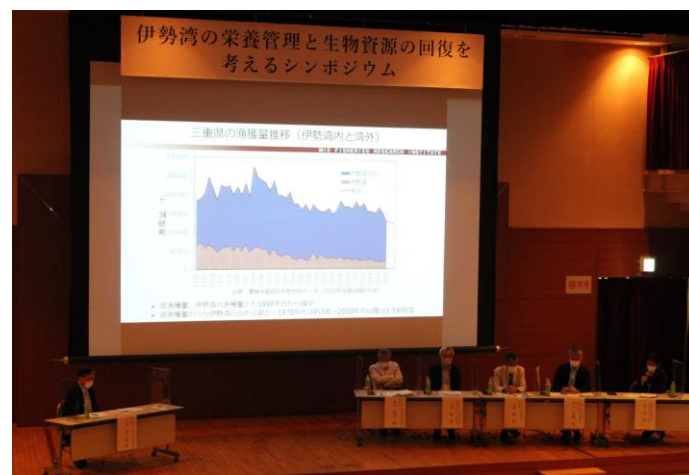
今回のシンポジウムは、伊勢湾再生に関して、学識者からの最新の研究成果の講演や、パネルディスカッションを通じて学識者・行政等と議論を交わし、過去～現在～将来の伊勢湾についてみんなで考えることを目的に開催したものです。

基調講演では、名城大中田特任教授より、伊勢湾シミュレーターを用いた栄養塩管理運転の効果予測について報告がなされ、栄養塩濃度を増加させた場合に、あさり資源等が回復する予測結果などが報告されました。

パネルディスカッションでは、名城大中田特任教授をコーディネーターとして、学識者・行政関係者等をパネリストにお招きし、伊勢湾や海域での取り組み実績や活動紹介及び栄養管理運転と生物資源の回復における課題やその対応方針について議論しました。ディスカッションでは、伊勢湾の水質環境が生物資源に及ぼす影響と回復に向けた取り組みについて多くの意見が飛び交い、白熱した討議が行われました。



基調講演の様子



パネルディスカッション

●「第8回 深日港洲本港航路に関する連携協議会」を開催

(近畿地方整備局 港湾空港部 港政課)

近年高まる観光振興や大規模災害発生後の物流・人流の代替性確保を目的に、かつて結ばれていた旅客船の定期航路復活に向け、大阪府岬町と兵庫県洲本市及び国や港湾管理者などの関係機関による「深日港洲本港航路に関する連携協議会」が平成28年4月に発足しました。

この協議会での意見等を踏まえ、平成29年度より運航を開始した「深日洲本ライナー」は昨年度をもって事業計画期間を終了しましたが、今年度から新たに地方創生推進交付金事業(計画期間:令和4年度～令和6年度)の認定を受け、引き続き運航(令和4年6月25日(土)から11月27日(日)までの土日祝日)されることとなりました。

令和4年6月1日(水)に開催した第8回協議会では、令和4年度の運航社会実験の詳細、更なる集客等に向けた事業推進体制、取組内容等について意見交換を行いました。

「深日洲本ライナー」はロードバイクなどスポーツタイプの自転車も一緒に乗船できる旅客船で、淡路島を自転車で一周するアワイチや、泉州・和歌山地域でのサイクリングを楽しむ方にも人気です。また、乗船券(半券)の提示で淡路島内の観光施設で特典を受けることも出来ます。

新型コロナウイルスの影響は引き続き不透明ではありますが、予防対策を十分に講じた上で、コロナ禍で疲れた心身のリフレッシュのためにご利用いただければと思います。



自転車とともに乗船するサイクリスト



アワイチを心待ちにする自転車

●「八代港コンテナターミナル機能高度化CFS倉庫完成式」開催

(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

令和4年6月5日(日)、「八代港コンテナターミナル機能高度化CFS倉庫完成式」を開催しました。

これまで、国と熊本県で整備を進めてきました八代港コンテナターミナルに、農水産物をはじめとする小口貨物を取扱うCFS倉庫が完成しました。熊本県産の農水産品はもとより、九州の各産地から八代港に集荷される環境が整い、輸出が拡大することで、地域の更なる産業競争力の強化に繋がることが期待されます。



